

令和8年3月19日発行 第77号

# 新発田農業高等学校同窓会報



同窓会事務局

## 同窓会長就任にあたり



同窓会長  
比企 広正

同窓生の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。また、日頃より本会の活動に対し、多大なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、令和七年度同窓会役員改選にあたり、ご推挙をいただき、同窓会長という重責を担うこととなりました。母校の発展のために尽力された歴代会長の偉大なる足跡を思うとき、その責任の重さに身が引き締まる思いでございます。微力ではございますが、会員の皆様の温かいご支援を糧に、本会のさらなる活性化と母校への貢献に全力を尽くす所存です。何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、芝農は明治四十四年の創立以来、本年で創立百十五周年という輝かしい節目を迎えます。この百十五年という歳月は、阿賀北地域の農業の歩みそのものであります。この長い歴史の根底に一貫して流れているのは、校訓「知行合一」の精神に他なりません。初代工藤校長は、知識の体得と同時に、自ら実践・実行しなければ農業教育の効果は上がらないと説かれました。この教えを土台に、これまで二万人を超える卒業生が阿賀北地域を中心とする県内各地、及び海外でも汗を流し、ある時は地域農業のリーダーとして、またある時は社会の様々な分野の先駆者として、実社会の荒波を乗り越えてまいりました。この伝統は、私たち「芝

農」の代えがたい誇りです。

昨今のニュースでも報じられているとおり、米の価格高騰や肥料・燃料等の資材高騰など、日本の農業は今、かつてない激動の渦中にあります。食卓に欠かせないお米の需給逼迫や価格の変動は、人々の生活を揺るがす深刻な課題となり、「食」の安定がいかんにか、かつ脆いものであるかを社会全体が改めて再認識することとなりました。

こうした混迷の時代だからこそ、母校のような「農業高校の存在意義」をより一層強く感じております。食料安全保障が国家の最重要課題となる中、大地に根ざして生命を育む知識と技術を学ぶ若者の価値は、かつてないほど高まっています。農業は単なる産業の枠を超え、人々の命と健康、そして国土を守る根幹です。現在、芝農ではICTを活用したスマート農業の実践など、伝統を守りつつも新たな挑戦が続いています。そこで学ぶ後輩たちは、地域の、そして日本の食の未来を確かなものにするための「人材」であると確信しております。

同窓会の役割は、単なる親睦の場に留まらず、芝農で学ぶ生徒にとって「知行合一」を体現できる学び舎であり続けられるよう、背中を押し続ける応援団でありたいと考えております。会員の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

結びに、母校の益々の発展と、会員の皆様のご健勝、ご多幸を心より祈念いたしまして、就任のご挨拶といたします。

## 伝統の継承と、新たななる挑戦



校長  
阿部 慎

同窓生の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。また、日頃より本校の教育活動に対し、多大なるご理解と温かいご支援を賜り、心より感謝申し上げます。今号より、同窓会報の一部がデジタル化されることとなりました。これにより、これまではお伝えしきれなかった日々の生徒たちの生き生きとした様子を、より詳しく、スピーディーにお届けできるよう努めてまいります。

さて、令和七年度の教育活動を振り返りますと、生徒たちの躍動する姿が目には浮かびます。夏の甲子園大会へ向けた野球部の快進撃は、地域を挙げての大きな盛り上がりを見せました。あと一步、夢の舞台には届きませんでした。土にまみれて白球を追う姿は、私たちに大きな感動と次への希望を与えてくれました。

また、十月と十一月にはイオン新発田店にて「芝農フェスタ」を開催いたしました。予想を遥かに上回る多くの方々にご来場いただき、改めて地域における「芝農ブランド」への期待の大きさを肌で感じる事ができました。生徒たちが地域の方と接し、誇らしげに自慢の農産物を手渡す姿こそ、地域貢献の原点であり、本校が地域にとって「なくてはならない存在」であることを証明してくれたと感じております。

農業高校の存在意義は、知識や技術の習得に留まりません。実習を通して「生きる力」や持続可能な社会の在り方を学び、地域社

会の「未来を耕す」ことこそが、本校の大切な役割であると考えています。同窓生の皆様が築き上げてこられた「芝農魂」という伝統は、今も脈々と生徒たちに受け継がれています。しかし、農業を取り巻く環境は絶えず変化しており、時代は待つてはくれません。私たちはこの伝統を誇りとしながらも、新たな時代の要請に応えるべく、常に教育内容を再考し、新しい取組みを止めることなく進めてまいります。地域課題に正面から向き合い、熱き情熱と確かな技術で解決に導くことのできる人材を育てること。これこそが、本校の変わらぬ使命です。

これからも、生徒一人ひとりが地域を愛し、また地域から愛される存在として、この豊かな阿賀北の大地を守り発展させる担い手となるよう、教職員一同、真摯に取り組んでまいります。

同窓生の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。末筆ながら、皆様の益々のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

## 令和7年度

### 同窓会総会を終えて

黒川支部長

羽田 誠

同窓生の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。飯豊の山々には未だ多くの雪が残っておりますが、足元には少しずつ春の息吹が感じられる季節となりました。

さて、令和七年度の同窓会定例総会は、中条・黒川支部が合同で担当となり、去る七月二十六日に中条グランドホテルにて開催いたしました。当日はご来賓に北新潟農業協同組合 代表理事理事長の近田俊幸様をお迎えし、多くの会員の皆様にご出席いただきました。おかげをもちまして、全ての議案が承認され、盛大に挙行できましたことを改めて厚く御礼申し上げます。

昨今の農業情勢に目を向けますと、一昨年来より米価が高騰し、備蓄米の放出が行われるなど、現在もなお予断を許さない状況が続いております。こうした厳しい情勢下にあっても、我々農家は日々、良質米の生産に真摯に取り組んでおります。今後は生産者、消費者、そして行政が手を取り合い、誰もが納得できる持続可能な適正価格が実現することを願ってやみません。

今後は、生産者と消費者が互いに理解を深め、そこに行政の適切な支援が加わることで、双方が納得できる「適正な米価」が維持されることを切に願っております。

一方、母校に目を向けますと、地域の中核校として、農業実習や各種部活動に熱心に取り組む生徒の姿は、我々同窓生にとつて大きな誇りであり、励みとなっております。母校がさらに発展することを願うとともに、未来の農業を担う若者たちが、芝農の伝統

を継承しながらも新たな感性でチャレンジしていくことを期待してやみません。

結びに、本総会をもちまして、長きにわたる会長として本会の発展に多大なるご尽力を賜りました吉田和夫会長が退任されました。これまでの並々ならぬご指導とご厚情に対し、深く感謝申し上げます。

最後になりますが、会員の皆様のご健勝と、母校の益々の隆盛を祈念いたしまして、担当支部代表の挨拶とさせていただきます。



令和八年度

同窓会総会開催にあたり

豊浦支部長

佐藤 良司

(昭和四十六年 農業科第三十二回卒)  
芝農同窓会員の皆様、この度令和八年度の同窓会総会を担当することになりました豊浦支部長の佐藤良司と申します。よろしくお願いいたします。

ここ豊浦地区は新発田市の南西部に位置し、古くは平安時代末期から中世にかけて奈良の東大寺の荘園で「豊田荘」として開かれたと伝えられております。

昭和三十年に中浦、本田が合併し福島村となりやがて、豊田の「豊」と福島潟湖岸の「浦」を合わせ豊浦村となったのが豊浦地区のはじまりです。

文字通り豊かな水田が広がり、現在は稲作の他、柔らかく味わい深い新発田牛の肥育地として、またナス、オクラ、ウメなどの野菜・果樹の産地として知られております。毎年恒例の定例総会は、美人になれる温泉として知られる月岡温泉での開催予定です。豊浦支部としては十七年ぶりとなり、何分不慣れではございますが、支部一丸となって取り組んで参りますので、ご参加くださいますようお願い申し上げます。



放課後の教室風景

### 令和7年度事業報告

月 日	会 務・事 業	内 容
4月 2日	学同事務局会議	役員会・事務局分掌・支部連絡について
4月 7日	入学式	同窓会長出席 来賓祝辞
4月18日	学同事務局会議	役員会・会計監査準備
4月26日	会計監査 役員会 (新発田農業高校)	斉藤副会長・杉山監事・鈴木監事 1 同窓会理事会について 2 同窓会定例総会について 3 その他
5月20日	学同事務局会議	同窓会理事会準備
5月24日	同窓会理事会 (金子屋別館)	【議題】 1 令和6年度会務・事業・会計決算報告 2 役員改選について 3 令和7年度事業計画(案)・予算(案)審議 4 同窓会報について 【報告事項】 (1) 令和7年度以降の同窓会総会開催について (2) 支部長・支部理事変更について (3) 令和7年度同窓会事務局分掌・各支部連絡係について (4) その他
7月18日	学同事務局会議	同窓会定例総会準備
7月26日	同窓会定例総会 (中条グランドホテル)	【議題】 1 令和6年度会務・事業・会計決算報告 2 役員改選について 3 令和7年度事業計画(案)・予算(案)審議 4 同窓会報について 【報告事項】 (1) 令和7年度以降の同窓会総会開催について (2) 支部長・支部理事変更について (3) 令和7年度同窓会事務局分掌・各支部連絡係について (4) その他 感謝状贈呈
10月14日	学同事務局会議	同窓会報について
2月24日	学同事務局会議	同窓会入会式について
2月27日	同窓会入会式	〇〇〇〇出席 挨拶 卒業生への同窓会組織の説明
3月 2日	卒業式	笠原副会長出席 来賓祝辞 令和7年度 生物資源科 13回 食品科学科第 21回 環境科学科 21回
3月19日	同窓会報発行	第77号

### 役員改選

役 職	旧 役 員	新 役 員
会 長	吉 田 和 夫 (平成28年～3期)	比 企 広 正 (新任)
副 会 長	斉 藤 勇 (平成28年～3期)	笠 原 尚 美 (再任)
副 会 長	比 企 広 正 (令和4年～1期)	黒 岩 錦 江 (新任)
副 会 長	笠 原 尚 美 (令和4年～1期)	坂 上 清 一 (新任)
監 事	杉 山 仁 (平成28年～3期)	杉 山 仁 (再任)
監 事	鈴 木 松 男 (平成28年～3期)	小 野 秀 男 (新任)
監 事	黒 岩 錦 江 (令和4年～1期)	真 田 喜 純 (新任)

### 支部長・支部理事の変更

支 部	退 任	新 任
水 原	支部長 小 泉 正 博	支部長 遠 藤 昌 文
	理 事 脇 坂 裕 一	理 事 清 野 長 年
		理 事 植 木 昌 由

令和7年度卒業生より 各種大会報告

新潟県学校農業クラブ 県連盟会長を務めて

3年4組 菅原真優

令和5年度より新発田農業高校が新潟県学校農業クラブ連盟事務局を務めさせていただいております。先輩から私は新潟県連盟会長を引き継がせていただきました。引き継いでから今までを振り返ってみると、私にとってかけがえのない何物にも比べられない大切な時間でした。

私は2年の後半から生徒会長を務め、学校代表として新潟県連盟の農業クラブ行事に参加させていただきました。その際から、新潟県の代表である新潟県連盟会長も務めさせていただいています。そこで他校と交流を深め、学校生活や、授業内容の情報交換をしました。そこで話し合ったことは今でも大事に記憶しています。そこで出会った新潟県連盟の農業クラブ員には感謝でしかありません。今でも仲良くさせていただいており、交流を深めております。

交流を行ってから、今までよりも農業や農業クラブに対して関心が大きくなりました。

私は新潟県連盟会長として、5月に東京都で行われた春季代議委員会に参加しました。全国の場合となると今までの新潟県内で行ってきたものよりも規模が大きくとても緊張しましたが、無事に県外の友人を作ることができ、住む場所 通う学校は違えど同じ農業クラブ員として繋がっていることを強く実感しました。

この一年、皆様のご協力により、新潟県で行われた様々な行事を無事実施することができました。先生方、各県の代表の皆様には感謝でしかありません。本当にありがとうございました。

このことから私は新潟県連盟会長としての活動を通して沢山の方々に会い、新しい扉を開くことができました。また、農業高校でしか学べない体

験ができとても嬉しく思います。

来年、再来年、今まで以上に農業クラブが盛り上がることを願っています。

そして、農業クラブ員の皆様の活躍を心から祈念いたします。

農業鑑定競技会 県大会 最優秀賞

3年2組 内田 昊

私は今年度、農業鑑定競技会県大会(分野造園)で最優秀賞をとることができました。

そして今回、全国大会へと足を運べる喜びと、昨年、優秀賞しか取ることができなかった悔しさをはらすことができ、勉強を頑張ったかいがあつたなと思いました。農業鑑定は、テストと同じ時期に行われるため、勉強の同時進行をしなくてはならず、範囲となる箇所を繰り返し練習して覚えました。今を振り返ると、その努力があり大会で良い結果を出すことができたのだとおもいます。大変だったけど頑張つて良かったです。

北信越大会に出場して

陸上部 3年3組 松田恵那

私が北信越大会に出場して、これまでの陸上の大会とは違う緊張感とレベルの高さを強く感じました。強い選手ばかりで、試合前から会場の雰囲気圧倒されました。

実際に競技が始まると、自分の力がどこまで通用するのか不安もありましたが、仲間や先生の声援に支えられ、最後まで全力で挑むことができました。結果は悔しさも残りましたが、今まで練習した成果を発揮することができました。

そして最後の大会である北信越大会出場は私の高校生活で最高の思い出になりました。

## 編集後記

同窓会報は今号で七十七号の発行となりました。これまで、同窓会活動の報告、学校の現況などをお知らせするため、できる限り同窓会員の皆様へ配布を行ってまいりましたが、支那によっては配付が困難な状況が見られることから、検討をしてみました。よって今年度の総会で紙面での発行は取り止め、学校ホームページから閲覧可能にすることで承認されました。

会員の皆様には状況をご理解いただき、引き続き母校のご支援、協力を賜りますようお願い申し上げます。

